

2022/9/4

ヨハネの黙示録 講解メッセージ㉔

『ヨハネの黙示録 11章 一主は永遠に支配される一』

※ 默示録とゼカリヤ書

「それから、私に杖のような測りざおが与えられた。すると、こう言う者があった。「立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけない。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みにじる。」

(黙示録 11:1-2)

黙示録は、すべて象徴で書かれています。「礼拝している人たち」とは救われる人たち、「聖所の外の異邦人」とはイエス・キリストを信じない人たちのことです。彼らを測ってはいけないのは、彼らは滅びるからです。イエス・キリストは、公に宣教を始めてから十字架に架かるまでのおよそ 42 カ月間（3 年半）、多くの迫害に会いました。ここは、伝道には迫害が伴うということが象徴的に語られています。

「それから、わたしがわたしのふたりの証人に許すと、彼らは荒布を着て千二百六十日の間預言する。」彼らは全地の主の御前にある二本のオリーブの木、また二つの燭台である。（黙示録 11:3-4）

1260 日とは 42 カ月間と同じ期間です。聖書が語る「預言」とは、字の通り、神のことばを預かって伝えることであって、いわゆる「予言」とは、まったく異なるものです。

「二人の証人」とは、イエス・キリストを指します。それは、「二本のオリーブの木」が、ゼカリヤ書で預言された救い主イエス・キリストを指す言葉だからです。聖書は、同じ内容の預言が幾度も繰り返されています。また、歴史も同じことが何度も繰り返されます。イスラエルの歴史は苦難の歴史です。これは、どんな苦しみにあっても必ず神に助けられるという型です。

イスラエルの歴史を簡単に振り返ってみましょう。アブラハムの子孫から 12 部族が生まれ、イスラエル王国が建てられます。ダビデ王、ソロモン王の時代は繁栄して

いましたが、その後、国は10部族を引き連れた北イスラエル王国と2部族を引き連れた南ユダ王国に分裂します。そして、北イスラエル王国はアッシリアに滅ぼされ、南ユダ王国もバビロニアに滅ぼされて、多くの国民はバビロニアに強制移住させられます。紀元前6世紀ごろの話です。その時神は預言者を立てて人々を励まし、やがてバビロニアから解放されます。その時のリーダーがゼルバベルとヨシュアの二人です。

「また、そのそばには二本のオリーブの木があり、一本はこの鉢の右に、他の一本はその左にあります。」さらに私は、私と話していた御使いにこう言った。「主よ。これらは何ですか。」私と話していた御使いが答えて言った。「あなたは、これらが何か知らないのか。」私は言った。「主よ。知りません。」すると彼は、私に答えてこう言った。「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの靈によって』と万軍の主は仰せられる。大いなる山よ。おまえは何者だ。ゼルバベルの前で平地となれ。彼は、『恵みあれ。これに恵みあれ』と叫びながら、かしら石を運び出そう。」

(ゼカリヤ 4:3-7)

「二本のオリーブの木」は、ゼルバベルとヨシュアを指し、ゼルバベルは実際にユダヤ人を助け出し、ヨシュアはサタンと戦い、罪を取り除いてあなたがたを自由にすると書かれています。

「主は私に、主の使いの前に立っている大祭司ヨシュアと、彼を訴えようとしてその右手に立っているサタンとを見せられた。」(ゼカリヤ 3:1)

「見よ。わたしがヨシュアの前に置いた石。その一つの石の上に七つの目があり、見よ、わたしはそれに彫り物を刻む。——万軍の主の御告げ——わたしはまた、その国の不義を一日のうちに取り除く。その日には、——万軍の主の御告げ——あなたがたは互いに自分の友を、ぶどうの木の下といちじくの木の下に招き合うであろう。」(ゼカリヤ 3:9-10)

このヨシュアの働きが、イエス・キリストと重ねて象徴されています。

私たちはもともとエデンの園で神と共に暮らすように造られました。しかし、悪魔に欺かれたために人は罪を犯し、世界に死が入り込みました。こうして、私たちは生まれながらにして死の体を持ち、滅ぶしかない者になりました。つまり、神の国から

死の国に移住させられてしまったのです。そこで私たちは死の恐怖の奴隸として生きています。そこから脱出しようとしてもがいても脱出することはできず、見える安心にしがみつき、見える富を求めて争います。人の悪事は、そもそも不安によるものであり、その不安は死の恐怖から生まれています。

要するに、私たちは死の国に強制移住させられて奴隸生活を送っているのです。その昔、バニロニアに捕らえられた時は、ヨシュアとゼルバベルが人々を解放してくれました。これは、イエス・キリストの型です。

「私はまた、彼に尋ねて言った。「燭台の右左にある、この二本のオリーブの木は何ですか。」私は再び尋ねて言った。「二本の金の管によって油をそそぎ出すこのオリーブの二本の枝は何ですか。」すると彼は、私にこう言った。「あなたは、これらが何か知らないのか。」私は言った。「主よ。知りません。」彼は言った。「これらは、全地の主のそばに立つ、ふたりの油そそがれた者だ。」

(ゼカリヤ 4:11-14)

油は三位一体の神の聖霊を指し、油注がれた者とは神が共におられるということを表し、救い主であることを示しています。この「油注がれた者」が、人々が待望するメシヤの概念です。そういうわけで、二本のオリーブの木は救い主イエス・キリストを指す言葉なのです。

ヨハネの黙示録は、聖書の最後の書なので、聖書のいろいろな箇所からの引用があります。正確に読み解くためには、聖書全体を正しく理解していることが求められるのです。

▣ キリストが地に住む人々を苦しめたとは

「彼らに害を加えようとする者があれば、火が彼らの口から出て、敵を滅ぼし尽くす。彼らに害を加えようとする者があれば、必ずこのように殺される。この人たちは、預言をしている期間は雨が降らないように天を閉じる力を持っており、また、水を血に変え、そのうえ、思うままに、何度も、あらゆる災害をもって地を打つ力を持っている。」(黙示録 11:5-6)

そして彼らがあかしを終えると、底知れぬ所から上って来る獣が、彼らと戦って勝

ち、彼らを殺す。

「彼らの死体は、靈的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。もちろんの民族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をながめていて、その死体を墓に納めることを許さない。また地に住む人々は、彼らのことで喜び祝って、互いに贈り物を贈り合う。それは、このふたりの預言者が、地に住む人々を苦しめたからである。」（黙示録 11:7-10）

神は、ご自身が遣わした者を必ず守ると約束されています。私たちは神の国の大天使です。神が共にいて守ってくださるので、心配しないで福音を伝えなさいということが象徴的に語られています。

「底知れぬ所から上って来る獸」は、悪魔の象徴です。ここは、イエス・キリストの十字架を表しています。イエス・キリストは、当時のパリサイ人の反感を買い、十字架につけられます。それは、キリストが「地に住む人々を苦しめたから」とあります。なぜキリストは人々を苦しめたのでしょうか。キリストは、救うために来られたのではないのでしょうか。

イエス・キリストは、私たちを罪から救うために来られました。そもそも罪とは、神が良きものとして造った価値を否定し、自分の努力で自分の価値を獲得しようとすることです。人から良く思われることを自分の価値と考えるので、お互いを比べて競い合い、嫉妬し合い、殺意もここから生まれます。それが戦争にまで発展するのです。つまり、私たちを苦しめているのは、自分の努力で自分の価値を手にしようとする罪です。人が一般に罪と考えるような悪事は罪の表面であって、罪の本質ではありません。

イエス・キリストは、私たちを苦しみから救い出そうと、自分で自分の価値を得ようとすることをやめ、キリストがくださる価値を受け取りなさいと言われました。これが信仰による義です。それは、本来私たちが持っていた義であって、それをもう一度プレゼントしてくださると言うのです。

しかし、神がくださる価値を受け取るということは、今まで自分が手にしていた価値を放棄しなければいけないということです。自分の努力で手に入れ、今まで抛り所としてきた価値を捨て、新しい価値で生きることを意味します。これが人を苦しめるのです。

キリストが私たちにくださった価値、それは「私の目にあなたは高価で尊い」とい

う価値です。あなたのためならいのちも惜しくないと言って、十字架に架かってくださるほどの価値です。それは、神にとって私たちは愛する子だからです。

ところが、人はなかなかその価値を受け取ることができません。これまで抛り所としてきた価値を手放せないからです。ある青年がイエス様のところに来て「どうすれば神の国に入るか」と尋ねたとき、イエス様は「あなたの持ち物を売って貧しい人に施しなさい」と言われました。律法を守ることは厭わなかった青年でしたが、自分の財産を手放すことはできませんでした。それは、彼にとって価値のあるものだったからです。

この世の人たちは、財産や権力や学歴や人気などに価値を見出します。それを放棄してイエス・キリストが与える価値を受け取るということは苦しみです。しかし、イエス様は、「誰もふたりの主人に仕えることはできない。私についてきたいなら、片方は捨てなさい。」と言われます。

パウロは、イエス・キリストのくださる価値の大きさに気づき、今まで自分がすがってきた生き方は、ちりあくただと言うまでになりました。この世の価値は、必ず消えてなくなりますから、持てば持つほど、いつ失われるかと不安になります。イエス様は、自分の宝は天に蓄えなさいと言われました。あなたの価値は見えるものにあるのではなく神と共にいる、それがイエス様のメッセージです。

当時イエス様を十字架につけたパリサイ人たちは、地位と富を握る優秀な人たちです。彼らはイエス様を十字架につけ、自分たちが勝利した気になっていました。ところが、3日後、恐ろしい出来事が起きました。イエス・キリストの復活です。

「しかし、三日半の後、神から出たいのちの息が、彼らに入り、彼らが足で立ち上がったので、それを見ていた人々は非常な恐怖に襲われた。そのときふたりは、天から大きな声がして、「ここに上れ」と言うのを聞いた。そこで、彼らは雲に乗って天に上了。彼らの敵はそれを見た。そのとき、大地震が起こって、都の十分の一が倒れた。この地震のため七千人が死に、生き残った人々は、恐怖に満たされ、天の神をあがめた。」（黙示録 11:11-13）

そして、キリストを信じる者も復活し、キリストと共に天に上げられます。これを見た人々の中には、回心してイエス・キリストを信じる者もいたということです。

※ 悪魔と戦う

「第二のわざわいは過ぎ去った。見よ。第三のわざわいがすぐに来る。第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々が起こって言った。「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」（黙示録 11:14-15）

「主は永遠に支配される。」とは、「悪魔は滅ぼされた」ということです。悪魔とは死を司る者であり、聖書が教えている悪魔（サタン）の実体は、死です。イエス・キリストが死からよみがえったということは、死を滅ぼした、つまり、悪魔を滅ぼしたことになります。これはダニエル書の預言の成就です。

私たちは、悪魔によって死の恐怖の奴隸にされています。ですから、この世界で「悪魔と戦う」とは、死の恐怖と戦うということです。それは、見えるものにしがみつき、自分の価値を自分で得ようとすることと戦うということで、すなわち、イエス・キリストがプレゼントしてくださった神の価値を受け取って生きていくということになります。死の恐怖に勝つことができるるのは、神のことばだけなのです。

「そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隸となっていた人々を解放してくださるためでした。」（ヘブル 2:14-15）

イエス・キリストが来られたのは、私たちを死の恐怖の奴隸から解放するためです。イスラエルの歴史においても、バビロニアに捕囚されて奴隸となっていた人々を二人のリーダーが救い出しました。これは、罪の奴隸となっていた私たちをイエス・キリストが救い出してくださったことの型です。

「それから、神の御前で自分たちの座に着いている二十四人の長老たちも、地にひれ伏し、神を礼拝して、言った。「万物の支配者、今いまし、昔います神である主。あなたが、その偉大な力を働かせて、王となられたことを感謝します。諸国の民は怒りました。しかし、あなたの御怒りの日が来ました。死者のさばかれる時、あなたのしもべである預言者たち、聖徒たち、また小さい者も大きい者もすべてあなたの御名を恐れかしこむ者たちに報いの与えら

れる時、地を滅ぼす者どもの滅ぼされる時です。」それから、天にある、神の神殿が開かれた。神殿の中に、契約の箱が見えた。また、いなずま、声、雷鳴、地震が起こり、大きな雹が降った。」（黙示録 11:16-19）

神の国が到来し、人々が神を礼拝している様子は、教会の象徴です。教会は、キリストが十字架で勝利したことを信じ、神に感謝するところです。私たちはもう死の奴隸ではありません。イエス・キリストがよみがえったことを信じていのちを手にし、死の奴隸から解放されました。こうして、ついに終わりの日が来たということなのです。

これが、地上にとっての第三のわざわいです。終わりの日は、生きるか死ぬかを迫られる時だからです。

イエス・キリストは、「信じる者は私と同じようになる」という福音を携え、「私を信じるのか信じないのか」を迫ります。私たちは死の奴隸でしたから、何もしなければそのまま死の奴隸として滅びます。しかし、キリストがくださる価値を受け取るものは永遠に生きる者となるのです。

ですから、終わりの日は、神を信じない者にとっては災いの時ですが、信じる者にとっては恵みの時です。黙示録は大きく誤解されていて、終わりの日に最後の審判があつて裁かれると思っている人が多いのですが、聖書は「今が終わりの時」と言っています。そして、「信じる者は裁かれない、信じない者はすでに裁かれている」とはつきり語られています。

「御怒りの日に死者が裁かれる」とあるのは、私たちが「死者」であり、「裁かれる」とは分けられるということです。つまり、生きる者になるのか、そのまま滅びに向かうのか、私たちが分けられる時が来たという意味です。イエス・キリストが来られたことで、あなたは今信じるのか信じないのかを問われています。聖書が「今は終わりの時」と繰り返し教えているのは、そういうことなのです。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことなく、死からいのちに移っているのです。まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。」（ヨハネ 5:24-25）

イエス・キリストを受け入れた者は、最後の審判が終わっています。すでに死から

いのちに移っているので、もうさばかされることはありません。死者が裁かれる時、この世界で神の声を聞く時、それは今です。神のことばを信じて、神の価値を受け取るなら、その人は生きる者になります。このことが、黙示録でも語られているのです。

「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかつたので、すでにさばかれている。」

(ヨハネ 3:17-18)

神は奴隸として苦しんでいる私たちを解放するために来られたのです。罪を裁くためではありません。終わりの時の選択は、今です。

歴史の中で、神は確かにイスラエルを助けました。これらのことを通して、私たちは、どんな苦しみの中にあっても希望を持って生きることができます。希望を持って生きることが悪魔との戦いです。私たちは神の国ただ中にいるという事実を信じて生きていきましょう。